

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

当院における心臓外科手術患者に対する理学療法士の術前リハビリテーション介入の現状と課題

2. 研究の対象患者

2014年～2020年の期間において、当院入院手術サポートセンターを受診し、心臓外科手術を実施した患者さんで以下の選択基準をすべて満たし、除外基準のいずれにも該当しない患者さん

・選択基準

- 1) 理学療法の処方が出た患者さん
- 2) 年齢不問
- 3) 性別不問

・除外基準

- 1) 研究責任(分担)者が研究対象者として不適当と判断した患者さん

3. 研究の対象期間

2014年1月1日～2020年12月31日

4. 研究の概要

近年、医療技術の進歩によって全身状態不良の患者や超高齢者にも開胸術の手術適応が拡大されてきている。高齢者は加齢に伴う進行性の各臓器の機能低下・予備能力の低下に加え、術前から多くの併存疾患を有しているものが多く、術後合併症併発リスクが高い。よって、術前から術後合併症を予防するための介入が必要となる。そのような中で、術前からアプローチすることの最大のメリットは、事前に患者の状態を把握できることに加え、術前および術後における患者の心理的不安を軽減し、術後リハビリテーションを患者との信頼関係の下にスムーズに展開できる点である。

当院では入院手術サポートセンターが中心となり、術前から手術に備えて多職種が連携し積極的に医療介入を行っている。リハビリテーション科では、2019年から心臓外科手術をうける患者を対象に、術前より吸気筋トレーニング(inspiratory muscle training:IMT)を含めた呼吸リハビリテーション(呼吸リハ)などの運動指導を実施している。IMTは、呼吸筋の最大筋力および筋持久力を向上させる手段として包括的呼吸リハの一種目となっており、その有用性に関して、慢性閉塞性肺疾患(chronic obstructive pulmonary disease:COPD)に対する成績は多く報告されている。しかし、術前の呼吸リハが心臓外科手術をうけた患者の術後経過に与える影響に関する報告は少ない。

そこで本研究では、当院にて心臓外科手術を受けた患者に対する術前の呼吸リハが術後経過に与える影響について後ろ向きに解析し、現状と課題を検討する。

5. 研究実施予定期間

2021年3月17日～2022年3月31日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

〔研究対象者背景〕：年齢、性別、身長、体重、既往歴、合併症、最終観察日・観察項目、入退院日、手術名・手術日、診断日、リハビリ経過、転帰先等

〔血液学的検査〕：RBC、Hb、WBC、New(%)、Lym(%)

〔血液生化学的検査〕：BS、HbA1c、LDL、HDL、T-CHO、TG、BUN、Cre、eGFR、GOT、GPT、LDH、CK、CRP、TP、ALB、Na、K、Cl、Ca、BNP、PNI

〔生理機能検査〕：呼吸機能検査

〔理学療法評価〕：歩行能力、日常生活動作能力、最大吸気圧(Maximal inspiratory pressure:MIP)

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

（連絡先） 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

- ・ 研究責任者： リハビリテーション科 岩瀬浩一
- ・ 臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)